

指導者

- 1 履修単位数 3単位
- 2 実施日時 令和7年11月 日 第5時限
- 3 学 級 ○○HR(名)
- 4 使用教科書 精選古典探究(東京書籍)
- 5 単元(題材)名 和歌をもとに登場人物の心情を的確に捉える。(『源氏物語』 「若紫」)
- 6 単元設定の理由

(1) 生徒観
 本学級の生徒は、授業に真面目に取り組む様子が見られ、隣同士での話し合いやグループでの意見交換でも積極的に発言しながら学習に取り組んでいる。これまでの学習では、現代語訳を通して助動詞や敬語といった文法知識の習得や本文の内容理解を進めてきた。文法事項については理解を深めることができている生徒がいる一方で、本文の内容理解を現代語訳の暗記のみに頼っている生徒も見受けられる。

(2) 教材観
 本教材は平安文学の代表作ともいえる作品である。これまでの古典学習で身につけた文法事項を活用しながら長編の物語文学を読むことで文章内容を的確に理解しつつ、作品の魅力を味わう力を身につけさせることができる。「若紫」では、紫の上の少女時代の様子が垣間見という独特な手法で表される。光源氏が垣間見した登場人物の行動や印象などの記述を基に、和歌に込められた心情を考えることで、古典を文学作品として読み味わうことができると考え、本単元を設定した。

(3) 指導観
 和歌に込められた思いを読み取るためには、和歌を詠んだ人物の置かれた状況や心情を作品の中から把握することが必要である。これまでの学習で身につけた文法知識を活用しながら、本文内容の読解を丁寧に進める。その後、和歌に込められた思いを、尼君の置かれた状況や和歌に現れている表現技法に注目させながら考えさせる。生徒が各自で作成した短歌を共有することで、どのような思いを表現するために和歌を詠んでいるのかを考えさせたい。

7 単元の目標

- (1) 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。
 [知識及び技能] (1) ア
- (2) 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。
 [思考力、判断力、表現力等] A (1) イ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
 [学びに向かう力、人間性等]

8 本単元における言語活動

尼君と女房の心情を読み取り、和歌を現代語で書き換える。(関連:[思考力、判断力、表現力等] A (2) ウ)

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 (1) ア)	①文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (A (1) イ)	①今までの学習を生かし、内容について積極的に解釈を深めるとともに、作成した短歌について進んで他者と評価しようとしている。

10 指導と評価の計画(全7時間)

次	学習活動	評価規準・評価方法
第1次 (4時間)	・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しを持つ。 ・「若紫」を読み、内容を理解する。	[知識・技能] ① 「記述の確認」
第2次 (1時間)	・「若紫」に登場する2首の和歌から尼君と女房の心情を読み取る。	[思考・判断・表現] 「記述の分析」
第3次 (2時間)	・2首の和歌を本文の内容と登場人物の心情を踏まえて現代語の短歌に書き換える。 ・作成した作品をグループや全体で共有する。 (本時)	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」 [主体的に学習に取り組む態度] ① 「行動の観察」

11 本時の目標

2首の和歌について、詠み手の意図や思いを読み取ったうえで短歌を作成することができる。

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準	評価方法
導入 5分	○前時の学習内容を振り返る。 ○本時の目標を確認する。	○前時の活動を振り返り、本時の目標を理解させる。		
展開 35分	○作成した短歌について、解説を作成する。	○本文のどの記述から心情を読み取ったのか、なぜその言葉を選択したのかを記述させる。	「思考・判断・表現」① ○本文の記述を根拠にして心情を考えている。	「記述の分析」 ワークシート
	○リライトした短歌および解説についてスライドを作成する。 ○作成した和歌および解説をグループで共有し、コメントをつける。	○ワークシートの内容をもとに、自分が作成した短歌と、工夫した箇所や表現しようとした心情についてまとめさせる。 ○良いと思った表現や工夫が感じられる箇所についてコメントさせる。 自分が作成した短歌との共通点や相違点にも着目させる。		「記述の分析」 Google スライド 「行動の観察」 グループワーク
まとめ 5分	○本単元のまとめをする。	○本単元の学習を振り返ることで、学習内容の整理をさせる。		

13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	読み取った尼君と女房の心情を踏まえて短歌を作成し、工夫した箇所について解説することができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	机間指導を行うことで、短歌の作成状況を観察し、尼君と女房の心情を現代語で考えさせ、その心情を訴える短歌を考えるように助言を行う。